

基本方針 2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます (2) 活力あふれる府立高校づくりをすすめます

【重点取組の点検結果】

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H27 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H27 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
7 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実	24 グローバルリーダーズハイスクール (進学指導特色校) の充実	進学実績等の向上、取組みの活性化など、パフォーマンスのさらなる向上 (H25 年度～)	グローバルリーダーズハイスクール 10 校	グローバルリーダーズハイスクール 10 校において、大学進学実績が向上	○	グローバルリーダーズハイスクール支援事業費	<ul style="list-style-type: none"> ◆10 校共同の取組みを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・海外派遣研修 (生徒 20 名をハーバード大学などに派遣 (7/26～8/2)) ・京都大学・大阪大学と連携した取組み (京大キャンパスガイド (12/12)、阪大ツアー-2015 (11/21) など) ・10 校合同発表会 (2/13、大阪大学会館) ◆10 校の評価を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・5 名の外部有識者で構成する評価審議会を開催し、平成 26 年度の各校の評価を行い、結果を公表 (H27.6) ・平成 27 年度評価に向け、評価審議会委員による学校視察 (H27.10～12)、学校長からのヒアリング (H28.3) を実施
		再指定制度の構築 (指定校入替、新規指定など) (H25 年度～)		再指定により 10 校が H27 年度から改めて 3 年間指定		再指定制度を構築し、平成 27 年度より 10 校を再指定、新規指定は見送った。	
		文理学科の拡充の検討 (H25 年度～)		H28 年度より 2 校について文理学科を拡充		平成 28 年度選抜から 2 校 (北野高校、天王寺高校) についてはすべての学級を文理学科として募集した。	

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H27 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H27 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
7 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実	25 国際関係学科の充実	国際関係学科の新たな方向性を検討 (H25 年度～)	・国際教養科を設置する学校 6校 ・国際文化科を設置する学校 3校 ・国際科(グローバル科)を設置する学校 0校	H28 年度より、府立箕面高校が国際教養科を国際科(グローバル科)へ改編	○	国際関係学科の充実	平成 28 年度選抜入学生より、府立箕面高校について国際教養科を国際科(グローバル科)として募集した。
	26 新たな学科・コースの設置や改編	新たな専門学科の設置(専門コースからの移行を含む) (H25 年度～) 新たな専門コースの設置 (H25 年度～)	専門学科 35 校 専門コース設置校 30 校	H28 年度より、府立箕面高校が国際教養科を国際科(グローバル科)へ改編 ※専門学科 35 校 府立布施高校に 2 コースを新たに開設 H27 年度及び 28 年度の各年度 4 校に専門コースを新たに設置 専門コース設置校 36 校 (計 55 コース) また、H29 年度に 3 校に専門コースを新たに設置	○	新たな学科・コースの設置や改編	平成 28 年度選抜入学生より、府立箕面高校について国際教養科を国際科(グローバル科)として募集した。(再掲) ◆平成 27 年度及び 28 年度の各年度 4 校に専門コースを新たに設置した。 (平成 27 年度) ・府立桜塚高校 ・府立香里丘高校 ・府立八尾翠翔高校 ・府立日根野高校 (平成 28 年度) ・府立豊島高校 ・府立北かわち阜が丘高校 ・府立みどり清朋高校 ・府立懐風館高校 ◆平成 29 年度選抜入学生より、府立東淀川高校、府立かわち野高校、府立りんくう翔南高校に、新たに専門コースを設置した(11/27)。

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H27 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H27 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
7 社会の 変化やニーズ を踏まえた 府立高校の 充実	27 工科高校 の充実	高度な職業資格 合格者 300 人 (H29 年度)	高度な職業資格 合格者 150 人	高度な職業資格 合格者数 213 人	△	実業教育充実事 業	◆熟練技術者の指導による高度な職業資格の 取得や、課題研究のレベルアップを図った。 ◆老朽化や安全性を考慮し設備の更新及び施 設の改修を行うとともに、産業界からのニー ズや学習指導要領に対応した設備を導入し た。 ◆平成 26 年 4 月から工科高校 9 校がそれぞ れの持つ強みを生かし、人材育成を重点化し た 3 つの型 (①「高大連携重点型」、②「実践 的 技能養成重点型」、③「地域産業連携重点型」) に分け、目的に応じたカリキュラムや学習プ ログラムを展開した。
		工科系大学への 進学実績 200 人 (H29 年度)	工科系大学への 進学実績 121 人	工科系大学への 進学実績 79 人			各校で生徒が取り組む資格取得・技能講習 等について、その講習等にあたり教員に資格 が必要かを調査し、各校で情報の共有を行っ た。
		教員の 「1 人 1 資格」 (H29 年度)	—	情報の共有			
	28 農業高校 の充実	—	—	—	—	農業高校の充実	◆「今後の大阪における農業教育のあり方の 提言書」(平成 25 年 3 月)を踏まえ、生産だ けでなく商品開発・流通販売まで踏み込んだ 6 次産業化への対応を進めるべく、豚舎や食 品加工室の改修に向けたスケジュールを策定 した。(商品開発例：農芸ポーク、農芸牛乳、 ジャム、ゆずハチミツポン酢等) ◆企業と連携した実習・インターンシップを 実施した。 (高島屋、大阪国際空港、大和リース、第一 パン等) また、大学・企業の技術者を招へいた課題 研究や実習、講演会を実施した。(筑波大、 近畿大、東京農業大、慶応義塾大等)

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H27 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H27 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
7 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実	29 大阪府教育センター附属高等学校の充実	—	—	—	—	大阪府教育センター附属高等学校の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆外部連携による授業プログラムの開発 ・1年の学校設定科目「探究ナビⅠ」において、企業の協力を得て、商品開発について生徒が研究発表した。 ◆ICT機器を活用した授業の実践 ・「探究ナビⅡ」において、タブレット端末を活用した授業を実施した。 ・英語において、電子黒板を活用した授業を実施した。 ◆観点別評価についての研究と成果の普及 ・文部科学省事業の「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」を実施した。
	30 生徒の「学び直し」等を支援する新たな学校の設置	—	—	—	—	エンパワメントスクールの設置	<ul style="list-style-type: none"> ◆「平成 27 年度に開校した高校」について ・西成高校、長吉高校、箕面東高校 3 校の授業力向上を図るため、5 教科担当者会議等の連絡会や研修会を定期的実施した。 ・キャリア教育コーディネーターやスクールソーシャルワーカー及び各校担当教員に対し、連絡会や研修会を定期的実施した。 ◆「平成 28 年度に開校した高校」について ・成城高校、岬高校 2 校の教育課程を編成し、施設、設備の整備を実施した。 ・エンパワメントスクールを紹介するパンフレットを作成し、府内中学校 3 年生全員に配布した。 ・府内各地域で開催される中学校長や進路担当教員等の会合でエンパワメントスクールについて情報提供を行った。 ◆「平成 29 年度に開校予定の高校」について ・9月の教育委員会会議で1校（布施北高校）の設置を公表。その後、11月の教育委員会会議にて最終決定した。(平成 29 年 4 月開校予定)

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H27 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H27 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
7 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実	31 通信制の課程の充実	—	—	—	—	通信制の課程の充実策の検討	◆通信制の課程の充実については、平成 25 年度から平成 30 年度を計画期間とする「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画」(平成 25 年 11 月策定)において、「引き続き検討を行う」こととした。 ◆平成 26 年度に、府内で株式会社立の通信制高校が設置されるなど、通信制課程の高校設置状況に変化が見られたことから、今後の通信制課程に対する生徒のニーズや志願動向を見極めるための情報収集を行った。
	32 生徒の授業アンケートを活用した授業改善	「授業アンケート分析システム」の完成 (H25 年度)	「授業アンケート分析システム」の作成開始	H25 年度に目標達成	◎	府立学校教育 ICT 化推進事業 「授業アンケート分析システム」	◆各学校が授業アンケートを実施するにあたり、その各学校が運用に関し、集計業務を一括して業者委託にて行った。
		府立高校全校に対するパッケージ研修支援の完了 (H27 年度)	府立高校 27 校に対し、パッケージ研修を実施	府立高校 9 校に対し、パッケージ研修を実施 ※累計 (H25～27 年度) 98 校	○	府立高校パッケージ研修支援	授業評価等から明らかになった授業改善に関する課題を解決すべく、組織的な校内研修体制を確立するとともに、教員全体の授業力を向上させるため、各校の実態に応じた授業観察シートを作成するなど、継続的な支援を実施した。
8 生徒の自立を支える教育の充実	33 デュアル総合学科の設置及び「デュアル実習」実施校の拡大	「デュアル実習」実施校の拡大 5 校 (H29 年度)	「デュアル実習」実施校 2 校	「デュアル実習」実施校 3 校	○	デュアル総合学科の設置及び「デュアル実習」実施校の拡大	デュアル実習の成果を広げるため、府立布施北高校でデュアル発表会を実施した。(11/27)

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H27 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H27 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
	34 「夢や志をはぐくむ教育」の推進	—	—	—	—	「志（こころざし）学」の実施	平成27年度大阪府教育センター研究フォーラムの分科会（12/25）において、「志（こころざし）学」の取組みについての実践発表とパネルディスカッションを実施し、「志（こころざし）学」実践事例集の作成に向け、優れた実践例を蓄積した。 （府内小中高支援学校教員・指導主事・教員を志す学生等 35 人参加）
8 生徒の自立を支える教育の充実	35 不登校の減少・中途退学防止の取組み	中途退学の課題が集中する学校に対して中途防止コーディネーターを配置（H29 年度）	中退防止コーディネーターの配置 35 校	中退防止コーディネーターの配置 33 校	○	中退防止コーディネーター配置	◆中退防止コーディネーターを配置している学校からのヒアリングを実施し、今年度の取組みや数値目標、校内組織の体制について確認した。 ◆中退防止コーディネーター連絡協議会を 1 回実施し、各校の取組みを共有化した。 ◆12 月に中退防止フォーラムを開催し、全府立高校及び市町村立中学校を対象に、取組みの成果を発信した。
		冊子「中退の未然防止のために」（改訂版）をすべての学校で活用する（H29 年度）	冊子「中退の未然防止のために」を活用	冊子「中退の未然防止のために」の実践事例集を作成		「中退の未然防止のために」改訂	「中退の未然防止のために」の冊子の活用の促進と、実践事例を集めた冊子を作成した。
	—	—	—	—	—	教育センターにおける相談機能の充実	様々な悩みを持つ子どもや保護者等に対し、効果的かつ効率的な相談を実施した。 ・専用電話相談の実施 ・24 時間相談窓口の実施 ・教職員の悩みの相談の実施 ・対面相談の実施 ・集中電話相談の実施及びインターネットによるメール相談の実施

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H27 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H27 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
8 生徒の自立を支える教育の充実	35 不登校の減少・中途退学防止の取組み	高校適応指導教室の充実 (H29 年度)	高校適応指導教室の設置数 1カ所	高校適応指導教室の設置数 1カ所 (入室者数延べ22名)	○	高校適応指導教室の設置	不登校生徒に対する支援プログラムを開発し、学校訪問を通じて支援プログラムの普及を図った。
		サポート拠点数 10カ所 (H29 年度)	サポート拠点数 1カ所	サポート拠点数 21カ所	◎	高校内における居場所のプラットフォーム化事業	NPO等民間支援団体と学校が連携して、学校内に「居場所」を開設し、福祉や労働等の関係機関と連携・協力するプラットフォームを構築。悩みや相談ごとを抱える生徒を支援した。 ※NPO等8団体が計21校と連携し、1,455人を支援(延べ16,140人)
	36 障がいのある生徒の高校生活をサポートするための人材の配置	スクールカウンセラーや学校生活支援員、学習生活支援員を希望する全府立高校に配置 (H26 年度)	スクールカウンセラー151校配置 ・学校生活支援員(介助員)34校 ・学習生活支援員(学習支援員)28校	<u>目標達成</u> ・学校生活支援員(介助員)33校 ・学習生活支援員(学習支援員)34校	◎	障がいのある生徒の高校生活支援事業	エキスパート支援員として、全ての府立高校にスクールカウンセラーを配置した。 生徒一人ひとりの障がいの状況に応じた学校生活支援を行うため、希望するすべての高校に学習支援員、介助員を配置した。
		37 長期入院している生徒等への学習支援 【具体的取組46の一部再掲】	学校からの要請に基づき非常勤講師を配置 (H25 年度～)	非常勤講師を6校に配置	非常勤講師を16校に配置	○	長期入院生徒学習支援事業
		遠隔授業システムの運用開始 (25 年度)	—	<u>H25 年度に目標達成</u>	◎	長期入院生徒学習支援事業	1校が遠隔授業サポートシステムを利用した。マニュアルの改訂を行った。

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H27 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H27 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
9 つながり をはぐくむ 学校づくり	38 学校協議会による保護者・地域ニーズの反映 【基本方針 7 具体的取組 124 の再掲】	学校協議会に関する情報の公表状況 100% (H29 年度)	学校協議会に関する情報の公表状況 87.0%	学校協議会に関する情報の公表状況 100%	◎	学校協議会の運営 保護者の申し出制度	全ての府立学校において、学校協議会委員の委嘱を行い(平成 24 年 8 月)、運営を開始。全府立学校で年 3 回以上会議を開催した。また、学校協議会に関する情報を公表していない学校に対し、個別に指導を行った。 保護者が、郵送、投稿、メール等により協議会に授業や教育活動に関して意見書を提出できるようにするとともに、意見について、必要に応じて協議会での調査審議を経て、校長に具申されるよう条件を整備した。
	39 専門的知識を有する社会人の積極的な活用	人材バンク登録者数 7,000 人 (H29 年度)	人材バンク登録者数 5,556 人	人材バンク登録者数 6,992 人 (H28.3 末現在)	○	社会人等活用推進事業	【特別非常勤講師】 教員では担当できない領域や内容について、専門的知識・技能を有する社会人等(担当する教科の教員免許状を持たない)が授業を担当し、生徒の学習活動などに対する成績評価を行った。(87 校、計 21,469 時間) 【社会人等指導者】 文科系部活動、帰国・渡日生に係る異文化交流指導、福祉に係る授業において、専門的知識・技能を有する社会人等が教職員の補助的な立場で教育活動を支援した。 ・文科系部活動 136 校、計 2,693 回 ・帰国・渡日生支援 13 校、計 569 回 ・福祉に係る授業 17 校、計 416 回

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H27 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H27 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
9 つながり をはぐくむ 学校づくり	40 中高一貫 教育の取組み	連携中学生の能勢高校入学割合 50.0% (H29 年度)	連携中学生の能勢高校入学割合 35.8%	連携中学生の能勢高校入学割合 44.4%	○	連携型中高一貫教育の充実	(能勢高校) 能勢町教育委員会、中学校長を含めた会議を設置し、中高連携活動の充実や教育課程の改善などに向けた研究を行った。 ◆会議の開催 ・小中高一貫教育総会 (4/16、小中高教員が参加) ・小中高一貫教育事務局会 (全 6 回) ・能勢高校を応援する会総会 (7/19) ◆生徒交流 ・能勢高校体験入学 (7/7、10/16、2 年全員) ・能勢高校文化祭 (9/27) ・能勢高校土曜日講習会 (10 月～2 月、全 12 回) ・小中高一貫教育研究発表会 (11/20) ◆教員交流 ・子ども支援部会 (全 6 回)、進路指導部会 (全 6 回)、教育課程部会 (全 6 回)
		柏原東高校の中高一貫選抜募集人員 80 名 (H29 年度)	柏原東高校の中高一貫選抜募集人員 60 名	柏原東高校の中高一貫選抜募集人員 60 名		(柏原東高校) 柏原市教育委員会、中学校長を含めた会議を設置し、中高連携活動の充実や教育課程の改善などに向けた研究を行った。 ◆会議の開催 ・中高一貫推進委員会 (府教育委員会、市教育委員会、高校、中学校 7 校で構成) (6/22) ◆生徒交流 ・連携授業「書写・書道」を年 4～5 回実施 ・バドミントン部等が中高合同練習実施 ・学校説明会、オープンスクールを 3 回実施 (10 月、12 月、1 月、計 220 人参加) ・第 6 回中高書写・書道合同展覧会開催 ◆教員交流 ・柏原市進路指導研究会との交流会 (9/30)	

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H27 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H27 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
9 つながり をはぐくむ 学校づくり	40 中高一貫 教育の取組み	—	—	—	—	併設型中高一貫校の設置	<p>◆ 8月において、併設型中高一貫校として府立富田林高等学校に併設される中学校の学校概要を決定し、中学校の教育課程や教育内容等の検討状況を報告した。</p> <p>◆ 中学校の設置に当たり、大阪府立学校条例の改正を行うとともに、内部改修に係る設計を行った。</p>
	41 高大連携 の推進	府教委との包括協定を締結する大学 25 大学 (H29 年度)	府教委との包括協定を締結している大学 22 大学	府教委との包括協定を締結している大学 24 大学	○	包括協定締結校の拡大	新たに府教育委員会と包括協定を締結する大学はなかった。
		大学での講義の受講により単位認定を行う学校 25 校 (H29 年度)	大学での講義の受講により単位認定を行う学校 19 校 (H23 年度)	大学での講義の受講により単位認定を行う学校 14 校	△	高大連携の推進	◆ 大阪工業大学との共催で「科学の甲子園大阪大会」を開催した。 (10/25、22 校 135 名が参加)
		高大連携実施校の割合 80% (H29 年度)	高大連携実施校の割合 76.8% (H23 年度)	高大連携実施校の割合 81.2% (参考) H25 年度実績： 76.6%	◎		
42 公立大学 法人大阪府立 大学との連携 推進	高大連携講座を受講する学校数を増やす 15 校 (H29 年度)	府立大学の高大連携講座を受講する学校数 6 校	府立大学の高大連携講座を受講する学校 11 校	△	公立大学法人大阪府立大学との連携推進	<p>◆ 高大連携集中講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「工学研究の最先端 (担当教員 15 名)」 2 校 6 名受講 ・「セクシュアリティと看護 (担当教員 4 名)」 1 校 16 名参加 <p>◆ 出張講義 8 校延べ 684 名の生徒に対し講演を行った。</p>	

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H27 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H27 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
10 学習環境 の整備	43 府立学校 施設の耐震性 能向上・大規 模改修 【基本方針 8 具体的取組 131 の再掲】	校舎の耐震化 府立高校・府立 支援学校： H26 年度末に 100%	校舎の耐震化 府立高校 77.6% 府立支援学校 79.3%	H27 年度 府立高校 100% 府立支援学校 100%	○	耐震性能向上・ 大規模改造事業	府立学校 6 校の 13 棟で耐震・大規模改修工 事を実施した。 (府立高校 2 校 4 棟、府立支援学校 4 校 9 棟)
		非構造部材 府立高校・府立 支援学校： 屋内運動場等 の照明器具等 落下防止対策 を H27 年度末 完了めざして 実施	—	<工事> ・屋内運動場吊 り天井 2 校／2 校 ・屋内運動場の 照明等 13 校／30 校 ・武道場の天井 等 26 校／77 校 <実施設計> ・屋内運動場の 照明等 15 校／30 校 ・武道場の天井 等 28 校／77 校	△		◆非構造部材耐震化に向けて、屋内運動場の 吊り天井等の工事と平成 28 年度工事予定分の 実施設計を行った。 ◆平成 27 年度未完了とする目標は達成できな かったが、できるだけ早期に耐震化を完了す る。 <工事> ・高等学校 屋内運動場の照明等 12 校 武道場の天井等 26 校 ・支援学校 屋内運動場の吊り天井 2 校 屋内運動場の照明等 1 校 <実施設計> ・高等学校 屋内運動場の照明等 12 校 武道場の天井等 28 校 ・支援学校 屋内運動場の照明等 3 校

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H27 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H27 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
10 学習環境 の整備	44 府立学校の老朽化対策と空調設備等の整備推進 【基本方針 8 具体的取組 130 の再掲】	25 年度に老朽度調査及び整備計画策定以降、計画に基づき老朽化対策の実施 (H25 年度～)	昭和 47 完了～19 年度完了の 31 校で改築を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・「府立学校施設整備方針」を策定 ・エレベーターの改修工事及び翌年度工事に係る実施設計 ・内部改修に係る実施設計 ・外部改修に係る工事及び翌年度工事に係る実施設計 	△	府立学校老朽化対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆老朽化対策については、大阪府ファシリティマネジメント基本方針に基づき、「府立学校施設整備方針」を策定した。 ◆府立学校 7 校（高等学校 2 校、支援学校 5 校）で老朽化したエレベーターの改修工事及び府立学校 5 校（高等学校 2 校、支援学校 3 校）で実施設計を実施した。 ◆府立学校 10 校（高等学校 10 校）で外部改修工事を実施した。 ◆府立学校 5 校（高等学校 5 校）で内部改修に係る実施設計及び 8 校（高等学校 8 校）で外部改修に係る実施設計を実施した。 ◆府立学校 31 校（高等学校 29 校、支援学校 2 校）で空調設備を設置した。 ◆府立学校 4 校（高等学校 4 校）でエレベーター、同 3 校（高等学校 3 校）でスロープ、階段手すり設置工事等を実施した。 ◆府立学校 3 校（高等学校 3 校）で老朽化が著しいトイレ設備の改修工事を実施した。
		特別教室への空調設備の設置 全体で 98 校 302 教室 (～H27 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室への空調設備の設置 32 校 95 教室 ・トイレの改修 4 校 ・バリアフリー化 5 校 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室への空調設備の設置 31 校 90 教室 ※累計 (H25～) 93 校 275 教室 ・トイレの改修 3 校 ・バリアフリー化 3 校 		特別教室空気調節設備整備事業 校舎等維持補修事業 福祉対策整備事業	以下、設備等を整備した。 <ul style="list-style-type: none"> ・特別教室への空調機の設置 (府立高校 29 校、府立支援学校 2 校) ・トイレ改修 (府立高校 3 校) ・エレベーターの設置 (府立高校 3 校) ・段差解消、手摺り等の設置 (府立高校 2 校、府立支援学校 1 校)

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H27 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H27 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
10 学習環境 の整備	45 府立学校の ICT 環境の充実による「わかる授業」の実現 【基本方針 7 具体的取組 127 の再掲】	府立学校統合 ICT ネットワークの構築 教職員ネットワークと校内イントラネットの統合化により、SSC、校務処理等の作業が 1 台の端末で利用可能 (H26 年度)	府立学校統合 ICT ネットワークの構築 利用用途に応じて 3 つのネットワークを整備	H26 年度に目標達成	◎	府立学校教育 ICT 化推進事業	大阪市から移管された特別支援学校について、府立学校統合 ICT ネットワークの整備を実施した。
		校務処理システムの導入 全府立学校で稼働 (H25 年度)	校務処理システムの導入 パイロット校 22 校において実証テスト実施中	H25 年度に目標達成		府立学校教育 ICT 化推進事業	安定稼働のために平成 27 年 7 月にサーバー環境設定の見直しを実施した。
		生徒用パソコンの更新 (H28 年度)	H21 年に国費により生徒用パソコンを調達 (15,487 台)	生徒用パソコンの更新を含む学校情報ネットワーク再構築に向け、詳細設計を実施	○	学校情報ネットワーク再構築整備事業	学校情報ネットワーク再構築概要設計書に基づき、具体的な機器、設定条件等の詳細設計を行い、H28 年度更新予定のサーバー機器等の構成や回線契約等に関する仕様を決定した。 併せて、生徒用パソコンのリース化に向けた利用状況調査の方法等を検討した。
	46 在宅等で学習する生徒への ICT を活用した支援	遠隔授業システムの運用開始 (H25 年度)	—	H25 年度に目標達成	◎	長期入院生徒学習支援事業	1 校が遠隔授業サポートシステムを利用した。マニュアルの改訂を行った。

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H27 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H27 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
11 公平でわかりやすい 入学者選抜 の実施	47 入学者選抜の調査書における目標に準拠した評価(絶対評価)の導入	目標に準拠した評価(絶対評価)への移行 (最短で、H28 年度選抜での実施)	相対評価による調査書を活用した入学者選抜	調査書の取扱いや評価項目等についての検討及び方針の公表 各市町村の評価担当指導主事をメンバーとした地区代表者会議を年2回、担当指導主事連絡会を年4回実施	○	調査書の改善に関する検討会議	◆調査書の絶対評価導入への対応については、新たな制度での入学者選抜の実施に向け、市町村教育委員会、中学校や高等学校の校長等対象の説明会を例年よりも早期に行うとともに、生徒、保護者への説明用のリーフレットを配付し、丁寧な周知に努めた。 ◆また、4月の臨時教育委員会会議で、府立高等学校入学者選抜における中学校3年生の目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)について、府内統一の基準を決定し公表した。 中学校における学習評価の充実に向けた取組みを支援するため、府内全市町村教育委員会とともに研究協議を行った。
	48 中学校における進路指導の充実	府教育委員会主催で各地区の進路指導の核となる学校の校長・担当者会の実施 年5回 (H25 年度～) 各地区・地域ごとに進路指導に係るネットワークの構築 (H26 年度～)	進路希望調査を府内全域で集約	進路指導地区代表者連絡会 6回開催 進路指導地区代表者連絡会につながるネットワークとして、全ての地区で会議等を4回以上開催		○	中学校進路指導推進緊急支援事業

項目		目標 (目標年次)	H24 年度実績 (計画策定時)	H27 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H27 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
12 活力ある 学校づくり をめざした 府立高校の 再編整備	49 府立高校 の再編整備の 計画的な推進	年次計画に基づ く再編整備の 実施 (目標年次：H30 年度) (H26 年度～)	再編整備方針の 策定	H27 年度実施対 象校の決定	○	府立高等学校再 編整備事業	大阪府立学校条例及び大阪府立高等学校・ 大阪市立学校再編整備計画に基づく平成 27 年 度実施対象校及び再編方針案を 9 月の教育委 員会会議にて公表。 その後、府議会での議論や保護者等への説 明を経て、11 月の教育委員会会議にて決定し た(エンパワメントスクールへ改編する学校 1 校、普通科総合選択制から改編する学校 5 校、再編整備の手法について検討する学校 1 校、募集停止の決定に際して、平成 28 年度入 学者選抜の志願動向を見極める学校 1 校)。 入学者選抜の志願動向を見極める学校につ いては、平成 28 年度入学者選抜の結果を踏ま え、平成 28 年 3 月の教育委員会会議で、平成 29 年度入学者募集時から募集停止とすること を決定した。